

令和 5 年 7 月

第5回 湯来地域における小中一貫教育校設置検討会議 発言要旨

【小中一貫教育校設置に向けた一部先行統合について】

※ 教育委員会教育企画課

湯来西小学校と湯来東小学校の先行統合の検討状況について報告する。

まず、先行統合に伴う、湯来西小学校区の児童の通学手段について、路線バスのダイヤ改正やコースの変更等を行うことで、湯来東小学校への通学が可能となる見込みであることから、そうした方向性のもとで、子どもたちの通学に係る負担をできるだけ軽減できるよう、教育委員会と路線バス事業者とで最終調整を図っている。なお、そうした方向性で調整を進めていることについて、湯来西小学校先行統合調整会議のメンバーを通じて湯来西小学校の保護者の皆様に情報提供させていただいている。

引き続きバス事業者との調整を進め、8月上旬の開催を予定している先行統合調整会議において、PTAや地域の方々に、通学手段に係る案を提示したいと考えている。

また、教育活動について、現在、学校において教育委員会の指導・助言のもと、湯来西小と湯来東小の特色を踏まえながら、さらには、湯来中学校とのつながりも見据えた学校経営計画を作成しているので、このことについても先行統合調整会議で説明する予定としている。そのため、8月上旬の調整会議には、湯来東小学校のPTAや水内地区町内会連合会の皆様にも御出席いただきたいと考えているので、改めて、日程調整等をさせていただきたい。

8月上旬の先行統合調整会議において、通学手段等についての御承諾を得ることができれば、8月下旬に開催を予定している第6回小中一貫教育校設置検討会議において、令和6年4月の統合に向けた手続きを本市が正式に進めていくことについて、構成員の皆様の御承諾を得たいと考えている。いずれにしても、令和6年4月の先行統合に向け、スピード感を持って取組を進めていきたい。

なお、前回会議において実施が決定した、湯来東小学校への視察については、二学期以降に実施できるよう、学校と調整を進めている。

【各団体からの質問等への回答について】

● 座長代理

今回、「参考資料」として配付しているが、湯来東小学校PTA、湯来保育園保護者会、湯来南保育園保護者会が、それぞれの団体において意見交換等を行った際に出た意見等をまとめて、提出してくれている。この資料は、事務局からも事前に情報共有させていただいている。

それに加えて、本日欠席されている、当会議座長の光井氏が所属する、五日市商工会湯来地区振興委員会において意見交換を行った際に出た意見を光井氏から預かっている。資料として配付はしていないので、代読させていただく、

(五日市商工会湯来地区振興委員会において意見交換を行った際に出た意見)

- ・ 新築校舎の建設を希望する

既存校舎を耐用年数（80年）まで修繕しながら使用するとしても、残りは約30年。将

来のことを考えると、新築校舎を建設し、80年使用する方がよいのではないか。

- 湯来運動広場の候補地選定について

面積が十分ある市有地である同敷地を候補地から外すのはどうか。レッドゾーンとなっているのは一部であり、イエロー部分も含めて災害対策を行うことを前提として候補地に入れることはできないだろうか。

(理由) 地理的に湯来地域のほぼ中心地である。図書館、福社会館、保育園が隣接している。

上下水道が完備している。クアハウスの利用ができればプールの建設が不要となる。

- 座長代理

今読み上げた内容を含め、各団体から出た意見の中には、いくつか質問事項があったと思うが、これらの質問について、教育委員会として、回答できることはあるか。

- ※ 教育委員会教育企画課

事前に各団体から提出いただいていた質問については、整理して回答を準備しているので、後ほど担当から説明させていただく。

今、代読していただいた、湯来運動広場を候補地に加えてほしいという内容についてだが、以前も説明したように、同敷地の一部がレッドゾーンとなっているのは事実であり、このような敷地において、法的に学校を建設できないわけではないが、土砂が校舎に流れ込まないための壁（擁壁）を作るなど、一定の対策が必要となることが想定される。また、近年、災害も増えている中で、行政の立場としては、学校の設置場所としての優先度が低いと考えられることから、前回の資料でもそのように整理していた。今回の会議に際して、候補地を絞る中で、そうした経緯を踏まえて、本日配付した「資料1」から除いている。

同敷地がレッドゾーンにかかっているということも踏まえて、候補地に残してほしいということであれば、同敷地には法的に建設できないわけではなく、検討自体が全くできないということではないので、そうした点も含めて意見交換をしていただければ、本市としても、その内容を踏まえて整理させていただきたいと考えている。

その他の事前にいただいていた質問については担当からお答えする。

⇒「参考資料」で挙げられた質問への回答は「別紙2」のとおり。

【意見交換：湯来地域に設置する小中一貫教育校の設置場所について】

- 座長代理

前回に引き続き、学校の設置場所について意見交換を行うが、まずは、前回、学校の設置場所はどのように決まるのかという質問があったことから、このことについて、教育委員会から説明をお願いします。

- ※ 教育委員会教育企画課

学校の設置場所は、最終的には設置者である広島市において決定することになる。

設置場所の決定に当たっては、地域の皆様の御意向、子どもたちの教育環境、地域コミュニティの活性化、コスト等の観点から総合的に判断し、市内部での調整を行うことになるが、本市としては、その中でも特に、地域の皆様の御意向が重要な要素になると考えている。

そのため、まずは地域としてどの場所に設置することを望んでいるのかということについて、しっかりと意見を出していただきたい。併せて、その場所に設置を望む理由や場所を選ぶ際に重視すべきポイントについても、発言していただけるとありがたい。

意見交換の結果、仮に、設置検討会議として場所を1つに絞ることが難しいとなった場合には、発言いただいた理由や重視するポイントも踏まえて、本市において判断させていただく。

その先の流れだが、市内部で関係部局との調整を行った後、設置場所や教育内容等を盛り込んだ基本構想のたたき台をこの会議に提示し、内容について皆様の御理解を得ることができれば、その場所に小中一貫教育校を設置することを前提として、正式に予算要求等の事務手続きを行うことになる。

○ 構成員

湯来東小学校、湯来南小学校はどちらも前を川が流れており、過去に水害もあった。近年は集中豪雨も凄まじいので、子どもの安全を確保する観点からも新しい学校を川のそばに設置することに抵抗を感じる。なるべく安全な場所を選定したい。

※ 教育委員会教育企画課

確かにこの2校は近くを川が流れているが、敷地自体はレッドゾーンに指定されていないことから候補地として挙げさせていただいた。一方で、川が近くにあるということは最終的な判断材料の一つになると考える。

○ 構成員

小中一貫教育校の設置後に、例えば砂谷地区の児童生徒が五日市の学校へ通うことは可能か。あるいは水内地区の児童生徒が加計や戸山の学校へ通うことは可能か。

もし小中一貫教育校の場所が現在の湯来南小学校となった際には、水内地区の児童生徒は近くの加計や戸山の学校に通いたくなったり、逆に現在の湯来東小学校に設置した際には、砂谷地区の児童生徒の中に五日市の学校に通いたくなったりする人も出てくるのではないかと思いを確認したい。

※ 教育委員会教育企画課

通学区域自体は住所で決定しており、小学校においては、特別な事情がある場合に限り、手続きを経て変更するという流れがある。単に距離が近いからという理由では変更できないことから、原則として通学区域内の学校に通うことになる。ただし、戸山小・中学校については一貫教育校であり、特例的に通学区域外からも児童生徒を募集していることから、市内全域の児童生徒が通うことができる。

中学校に関しては、住んでいる学区の中学校だけでなく、同じ行政区域内（佐伯区内）の中学校や、異なる行政区であっても、学区が隣り合わせになっている中学校を選ぶことができる。例えば、湯来東小学校区に住んでいる児童が清和中学校に進学したいとなれば、学区が隣接しているので、通学可能となる。ただし、加計は自治体が異なるため難しい。

いずれにしても、住んでいる学区以外の小中学校を自ら選択して通学する場合には、原則として通学費補助ができないので留意する必要がある。

学校が遠くなると他地域の学校を選ぶのではないかという点については、当設置検討会議の前身である意見交換会や在り方検討会議の中で、通学距離が遠くなったとしても通いたくなるような魅力的な学校にしたいという方向性で議論されていたことと記憶している。

● 座長代理

以前、砂谷中学校の部活動の種類が少ないことから三和中学校に通っていた生徒がいたと記憶している。教育委員会からの説明を踏まえると、新たにできる小中一貫教育校に通う場合は距離に応じて通学費の補助があり、別の学校に通う場合の交通費は自己負担ということになる。別の学校を選ぶかどうかは、本人・家庭の判断により決めることになると思う。

○ 構成員

「資料2」によると、例えば宇佐地区から砂谷地区に通う場合には60分程度を要する。また、令和11年完成予定で水内地区と戸山地区がつながるトンネル工事の計画が進められている。そうなれば、中学生は距離が近い戸山の学校に通いたい生徒が増えることが考えられる。こうしたことが湯来地域の中学校に通う生徒数の減少につながる。湯来地域は東西に非常に距離があることに留意してほしい。

※ 教育委員会教育企画課

戸山地区の小・中学校については、先ほど申し上げたとおり湯来地域からも通学可能なので、本人・保護者の判断に委ねられる部分だと考えている。

通学イメージについて補足説明させていただくと、「資料2」の前提条件(4)にあるとおり、現状の路線バスの経路と停留所の位置で、全ての停留所に止まることを想定した通学時間を記載している。つまり、最も時間がかかるケースを想定して試算している。仮に、スクールバスが運行されることとなれば、全ての停留所に止まることはないと考えられるので、その場合の通学時間は記載内容より短くなると想定している。

○ 構成員

通学ルートについて、「資料2」を踏まえて湯来東小学校区で考えると、最も児童数の多い津伏から湯来南小学校まではバスで約1時間かかることが考えられる。加えて、津伏のバス停を利用している児童の中には、家からバス停まで徒歩で15分程度かかる子どももいる。小学校ごとに始業時間が異なると思うが、新しい小中一貫教育校にバスで通学する場合には、概ね8時頃に到着するようなイメージか。

※ 教育委員会教育企画課

具体的な到着時間等は決まっていない。

始業時間に関して言えば、学校ごとに多少の調整が可能である。例えば、現在、湯来西小学校・湯来東小学校の先行統合に伴う通学手段に関して、路線バスの運行経路やダイヤ等を調整しているが、それでも現在の湯来東小学校の始業時間では登校が厳しいとなれば、必要に応じて、始業時間の調整を検討することになる。

○ 構成員

スクールバスであれば路線バスと異なり、始業時間に合わせて運行することができる。湯来西小学校は現在、路線バスの時間に合わせて始業時間を若干後ろ倒しにしていると聞いている。

仮に、湯来南小学校区に一貫校が設置され、湯来東小学校区の津伏から通学することを想定すると、学校に8時に到着するバスに乗車するためには、6時45分くらいには家を出る必要があると考えられる。これらを踏まえて、当団体のメンバーの意見を聴取したい。

※ 教育委員会教育企画課

8時30分が始業時間だとして、30分前の8時に到着するというのは少し早いように感じるので、他都市の事例など、一般的に何分前の学校到着で運行するものか確認し、改めて情報提供させていただきたい。

○ 構成員

子どもは始業の10分前には到着して準備をしないと、登校してすぐ授業開始されては切り替えがうまくいかない。現在、湯来東小学校では、特に1年生は早めに（10分前には）登校するように言われ、行動している。今日配付された資料を見れば、家を出る時間の目安が分かるので、その上で本当に通学できそうかということを含め、当団体で意見聴取する。

○ 構成員

杉並台グラウンドを設置場所の候補地として考える上で、水道水のことで共有しておきたいことが2点ある。1点目は、水道が市に移管されていないこと、もう1点は、学校ではプールなど大量の水が必要になると考えられるが、現在、4つある取水口のうち2つの調子が悪く、学校が設置された場合に、学校と団地住民が利用する水を十分に確保できるのかということである。候補地である杉並台グラウンドには水に関するこれらの課題があるが、どう考えているか。

※ 教育委員会教育企画課

水道の件は情報として把握しているが、候補地を挙げる段階である現時点では、水の需給バランスまで検討できていない。

○ 構成員

既存校舎のある湯来東小学校もしくは湯来南小学校について、増改築ではなく校舎を新築する場合の現実性について教えてほしい。

※ 教育委員会教育企画課

前回は説明をさせていただいたが、改めて施設整備を所管する部署に確認したところ、同様の回答だった。理論的にできないことはないが、敷地面積等を踏まえると、新築校舎建設のためには既存校舎の取り壊しが必要となるため、まず別の場所に仮設校舎等を建てて児童を移し、そこで数年間運営する間に既存校舎の取り壊しと新築校舎の建設を行うこととなる。こうした手法は児童の教育環境やコスト等の観点から現実的ではないと考えられることから、湯来東小学校と湯来南小学校を全て新築校舎とすることは想定していない。

● 座長代理

前回より設置場所と併せて新築か増改築かという点を議論しているが、耐用年数を80年として逆算すると湯来東小・湯来南小ともに建築後55年程度経過しており、新たに小中一貫教育校が開校するまであと5年しかかかると考えると、開校時には築60年となり、開校から20年程度で建て替える必要があるという課題がある。

○ 構成員

これまでの話を聞いて、湯来東小・湯来南小ともに築年数を考慮すると増築しても基礎の強度などに不安が残ることに加えて、増築することでグラウンドが狭くなるという弊害も予想され

るため、両校を候補地にするのは難しいと感じている。

また、湯来南庭球場・運動広場・湯来体育館を考えると、杉並台団地から通う場合に小学校低学年の児童が徒歩で通学できるのか少し不安がある。

杉並台グラウンドに関しては、杉並台団地の方にとっては好立地だが、湯来西小・湯来東小学校区の住民にとってはかなり距離がある。

先ほど、商工会から出た意見にあった湯来運動広場については、レッドゾーンにかかっているとはいえ、防災対策を講じれば候補地になり得ると考える。杉並台からにしても、湯来西や湯来東からにしても立地がちょうどいいのではないか。

○ 構成員

自分も同意見である。

(湯来運動広場に隣接する)サンピアゆきが災害時の避難所になっており、子どもたちの安全確保の観点からも湯来運動広場を候補地に挙げてよいと考える。

● 座長代理

先ほど教育委員会からも説明のあったとおり、最終的にこの会議からの要望として候補地を1つに結論付けなければならないというわけではなく、絞りきれない場合は数か所に絞ったのちに最終判断を広島市に委ねることもできる。

○ 構成員

4つの候補地がある中で絞り込むポイントがいくつかあると考える。安全性やインフラ、法的な設置の可否、建替えの現実性、各地区の児童生徒数や通いやすさ(総移動時間)などある程度項目分けができると考えている。それらを整理した資料があれば候補地をより絞りやすくなるのではないか。

次に、例えば候補地の安全性を考える場合、なにがどうあれば安全だといえるのか、ある程度明確な指標があれば、議論を深めることができると考える。

一方で、この議論が最終的には多数決になりかねないと危惧している。そうなるべきではないと考えるので、候補地の選定において、どんな学校にしていきたいのかという観点も必要になるのではないか。例えば、川をテーマに自然の大切さを学べる学校にしよう、となれば水内川に近い方がいいのではないか。など、どんな学校にしたいのかビジョンを明確にし、それを達成する条件が候補地を絞る基準になってもよいのではないかと考える。

○ 構成員

今の話にもあったように、湯来地域の特色を活かした学校づくりとなると、山や川など自然資源を活かそうという方向になるが、山や川が近いと災害リスクが高まるという側面がどうしてもある。学校の敷地内に限らず、山間地域のため通学の道中に危険が多いことは全員が理解していることだと思う。当団体からも安全性に関する意見が出ているが、災害リスクを完全に排除するのは難しいと考える。

一方で、前回会議で取りまとめたような、具体的な取組の実現に向かう中で、ピオトープを作るなど意見が出たものを実現するには、ある程度の敷地面積を持つ学校である必要があると考えている。そうした点で、既存の学校を活用する方法では面積が不足するのではないかと考える。

魅力的な学校づくりをして、移住・定住者を増やしていこうという中で、当団体から、学校

周辺に移住者向けの住宅を用意できないかという意見が出た。市営の石ヶ原住宅が法律の観点から移住者向けに特例的な対応ができないという話もあったので難しいかもしれないが、検討してもらえるとありがたい。

いずれにしても、敷地に関しては広い方がよいと考えるので、湯来運動広場は候補から外さずにおいていただきたい。

○ 構成員

当地区24名の町内会長で会議をした際に小中一貫教育校のことについても意見交換を行ったが、8割の方が湯来南庭球場・運動広場・湯来体育館への設置を推している。この場所であれば、既存の体育館・グラウンドを利用できるし、また、体育館前の駐車場には校舎を新築できる十分なスペースがあり、水内地区と砂谷地区のほぼ中間地点でもあるので、この場所が一番よいのではないかという意見でまとまった。

本日の会議では湯来運動広場も候補にするような意見が挙がっているが、土砂災害の危険がある場所は候補地にしてほしくないと思う。湯来東小・湯来南小にしても、同様に川が近くにあることから災害リスクが高く、子どもたちの安全を考えると適地ではないと考える。

● 座長代理

本日の意見としては出ていないが、将来的なことを考えると、ランニングコストも判断材料の一つになってくるのではないか。

次回の会議に向けては、前回と今回の意見交換で出た意見を分かりやすく整理した資料があれば、それに基づいて議論できるのではないか。

絞られた4つの候補地と、本日の意見交換で挙げた湯来運動広場を加え、今後はそれぞれの候補地を比較するために詳細な資料が必要になる気がしている。過去に災害があった地域の情報なども安全性に関する選考材料としてあるとよいかもしれない。

○ 構成員

本日提示いただいた4つの候補地は、レッドゾーンにかかっていないなど安全性も考慮した上で選定しているのか。

※ 教育委員会教育企画課

そのとおりである。

○ 構成員

湯来南小学校は約20年前に土砂崩れでプールが埋まり、湯来東小学校は約50年前の大水害で浸水したと記憶している。

本日の協議の中で湯来運動広場が再度候補地として挙げられているので、レッドゾーンにかかっているエリアに防災措置を行うことなどを検討して、候補地として残してほしい。

増改築については、耐用年数80年という中で、築55年の校舎を改築するとして、小中一貫教育校は完成まで5年程度を要すると考えられるため、開校20年で建て替える必要がある。それが分かっているのであれば、増改築という方法は選び難いと考えている。

○ 構成員

この小中一貫教育校の完成予定を教えてください。

※ 教育委員会教育企画課

増改築・新築のどちらの場合でもあっても、大規模な工事になることが想定されるが、一般的な整備スケジュールで考えると、設置場所等が決定し、施設整備に向けた予算を確保できれば、着手してから5～6年後に開校できる見込みである。

概ね9月末頃までに設置場所等を含めた一定程度の方向性が決まれば、来年度に計画作成や調査等、施設整備に着手するための予算を要求する手続きに間に合わせることができると考えている。

○ 構成員

4つの候補地について、どこに設置することを考えても悩ましい。候補地を考える中で妥協はしたくないので、市有地以外の私有地の買収という選択肢も含めて、候補地の可能性を広げたい。

また、10年後、20年後の湯来地域を考える上で、先ほど、湯来体育館の場所への設置を希望する意見があり、自分も個人的には望ましい場所だと考えているが、一方でその場所に設置した場合、湯来西小・湯来東小学校区の地域が衰退してしまうのではないかと考えている。

● 座長代理

この検討会議で最終的な候補地を1つに絞ることは難しいと思うので、2つか3つに絞った上で、最終的な判断は広島市に委ねるという流れになるのが最も自然な形なのではないかと考えている。その際には、地域の思いを広島市にしっかり伝える必要がある。広島市の判断材料として地域の意思を発信するためにも、この佳境に入っている検討会議を次回に繋げていきたい。

○ 構成員

湯来南庭球場・運動広場・湯来体育館に設置した場合、杉並台団地の子どもたちは徒歩で通学することになるのか。現在も夏季の徒歩通学は低学年の児童にとって負荷が高いので、徒歩での通学は心配である。

※ 教育委員会教育企画課

場所が決まっていないため、具体的な通学方法も決まっていないが、市内の他地域とのバランスを踏まえて考えると、現時点では、徒歩での通学が基本となるのではないかと考えている。

○ 構成員

自分も杉並台団地出身だが、同じことを考えている。面積や安全性の観点から体育館の場所を希望されている意見は理解できるが、現在、多くの児童がいる地区から徒歩で通学しにくい場所に学校ができたとして、10年後、20年後に若い世帯が増えていくのかという懸念がある。

● 座長代理

バス通学となる距離の基準等があれば教えてほしい。

※ 教育委員会教育企画課

この距離以上だとバス通学となるといった基準はないが、路線バス等の公共交通機関を利用して通学した場合に実費分の補助が出る基準としては、小学生は4km以上、中学生は6km以上となっている。

湯来地域は学区が広いため、現在でもこの制度のもとで補助を受けながら路線バスで通学している児童生徒もいる。

(以上)